

2023年9月の総評に代えて

○林 桂○

●桜望子●(山形県 29歳)

来るかもわからない
人を待っている
自らの蜜で開かない
芍薬をぬるま湯で拭く

【評】3、4行目は1、2行目の比喩として働くことを期待されている。飛躍があって、かつ美しいイメージに惹かれる。

●茉城そう●(北海道 25歳)

さよならの雨のぬるさを思い出す
シャワーヘッドの位置
下げながら

【評】シャワーを浴びているときに、突如別れの場面が蘇る。夏の雨の中での別れだったのだ。それがアナロジーとして蘇る。瞬時を伝えて、2行目3行目の表現が巧み。

● 桜咲 ● (千葉県 18歳)

大学は
まだ夏休み
秋彼岸

【評】大学の夏休みは9月末まで。秋の彼岸も既に過ぎている。初の長い大学の夏休みを経験しての所感だろう。屈託のない伸びやかさが、リズムと現れている。

● 加藤 万結子 ● (愛知県 44歳)

天高くメルカリで翼さがしてる

【評】秋の高い空。そこを飛ぶための翼が欲しい思いだ。メルカリにはないか。メルカリには何でもありそうに思えるので。

● うたた ● (岡山県 17歳)

体育祭終わり僕らのしりとりは
ルイ十六世、インド、ドレーク

【評】体育祭の興奮が冷め切らない。それが帰りのしりとり遊びになっている。些事を書きながら、その心情を見事に描く。

● 羊夏生 ● (東京都 17歳)

青春、
と
置いて
後を持って余す

【評】詩句か散文か。テーマの言葉の青春は直ぐに書き付けられるが、その後が続かない。いや、この続かない状況こそまさしく青春だろう。

● かわなご まい ● (埼玉県 21歳)

顔洗う姉の背中におはようと
抱きつきパジャマのやわらかい秋

【評】仲のよい姉妹の朝の姿が彷彿とする。じゃれつく妹が「私」。「やわらかい秋」が、秋の日差しの柔らかさを伝える。

● 平 春來里 ● (岐阜県 25歳)

あの世も
あんなことも
そら豆のあんこも

【評】「あの世」と「あんなこと」(この世)を並記した後に、さらに「そら豆のあんなこと」を並記する。これはこの世のことながら、別置された私事の世界の象徴のように思える。概念的なあの世、この世の外に自分の世界は存在する。そんな感覚を面白く伝えているようだ。

● 白藤 さくら ● (神奈川県 25 歳)

まぜまぜこまぜ
おおまぜこまぜ
まぜまぜちゅうまぜ
ちゅっとしますぜ

【評】これは手遊び唄の一種だろう。リズムカルで楽しい。

● 雲理 そら ● (大阪府 17 歳)

あめ降るかなあって私に言った
虹だよって泣きながら言う
霊安室

【評】大切な親族を亡くして、霊安室に納めたときの会話。ともに亡くなった人にかかわってのものである。亡くなった人をどう送るか。「あめ」も「虹」も心模様。